

市議団ニュース

江面第2小の統廃合が 加速化へ！ （学区等審議会）

第2回久喜市立小・中学校学区等審議会が、市立小・中学校の統廃合を議題として開催されました。

教育委員会から江面第二小学校の保護者、地域住民の方々約75名が参加して行われた説明会の内容が報告されました。

報告は質問の内容など

問 人数が少なくなっても、学校を存続させてほしいが存続は可能か。

答 今後議論を進めていく。現時点ではわからない。

問 地域から学校がなくなると、地域の将来が期待できない。保護者や地域住民と丁寧な議論が必要だが。

答 教育委員会が一方的に進めるのではなく、地域や保護者の意見を伺いながら進めていく。

審議会での議論は

冒頭、会長の方から「統廃合はやる。どの方向性でやるかが議論の中心」との発言を受けさまざまな意見が出されました。

◇統廃合ありきで進められているのではないか。

◇反対の声もあり、反対意見の内容を十分検討していく必要がある。

◇子どものケアを考えると手当が尽くされていない。子どもに対してどう説明していくのか。

◇土地が整備されれば人口も増える。総合的に考える必要があるのではないか。このような多くの意見が出されました。

しかし、議論のまとめでは会長から「地域振興計画など、久喜市全体の事を問題にすると、長期化する。統廃合を進め、その間に今出ている問題を検討しながら久喜市全体の学区を将来的にどうするかを審議していく必要がある」とまとめられ、同意を求めました。同意発言に対し、委員会ではしばらく長い沈黙が続くという異常な雰囲気になりましたが、再度会長から同趣旨の発言があり、審議会方針として決定しました。

地元説明会の声を 無視するのか

教育委員会は説明会の中で、一度や、二度の説明で結論を出すことはしない。保護者、地域住民の意見を十分に聞いて進めていくという事を約束しています。今回の審議会の進め方は統廃合ありきで強引に進められていると感じました。



審議員の任期は今回まで

今後の議論は新しい審議委員にゆだねられます。今回の決定を新しい審議委員に引き継ぐことが、妥当なのか考えさせられます。

教育環境常任委員会で調査

小・中学校の適正規模・適正配置について説明を受けました。委員会の質疑では「地域振興計画などの意見が地元の方から出ているか」「市長部局に関する意見が出ているのであれば関係部局が出席し対応すべき」との意見も出されました。必要なことです。

保護者、地域住民の理解が必須

私たちは、統廃合の問題は、保護者、地域住民の十分な理解を得たうえで進め、方向性を出していくべきであると考えています。

平間 ますみ

学童保育の児童増加に対し、対策を



渡辺まよよ

問 働く母親が増え、共働きの家庭が増えていくことから、市内学童クラブが軒並み定員を超えている。栗橋地域は新しい学童施設も開所し、鷲宮地域では、最も多い桜田小学校の敷地に新たな施設建設が進んでいる。しかし、久喜地域では、定員増となっているが対策がされていない。早急な対応、指導員の体制も拡充すべきである。

答 太田、久喜東、久喜小の定員が各大幅増となっている。今後の児童数の見込み、利用状況を検証し関係部署と協議していく。支援員の適正配置は指定管理者にお願いしている。

6月議会 改善を求め一般質問

犯罪被害者等支援条例の制定をして丁寧なケア、具体的な被害者支援を進めるべき

答: 被害者の方が平穏な生活に戻れるように様々な支援が必要と認識している。県や他市の動向も踏まえ条例の必要性について研究していく。

市の職員のしごと改善を

問 市職員の時間外勤務があまりにも多い。実態をしっかりと調査し、過労による病休や過労死を出さないためにも、職員間調整や正規職員増をすべきではないか。

答 現在長期病気休暇を取得している職員はない。しかし業務配分の調整不足により特定の職員に偏った時間外勤務が発生していることの解消が課題であることは認識している。ヒヤリングは行っているが、業務量に見合う人事配置を目指し、労務管理の徹底を図っていく。

やっぱりおいしい「家庭の味」久喜市でも

7月6日、議員団4人で草加市を行政視察しました。人口24万人の大きな都市。「このまちで子どもを育てたい」を押し出しています。視察の目的はもちろん、草加市の自校給食です。



「生サケのゆず甘酢あんかけ、豚肉と小松菜まぜご飯」手作りですとても美味しかったです！

地元農産物をふんだんに使っています
「地産地消」に農家も協力

◆自校方式だからこそ！食材も業者お任せではありません。物資の選定には校長先生もPTAも参加して試食をしています。調理士さんたちも「調理実習」「研修会」などで個々の子供たちに対応した工夫をしています。
◆「食育応援農家」のみならず、現場の声が生産に反映しています。

スープやだしも手作りか 当たり前！

◆草加市では、各学校の栄養教諭または栄養士が、季節に合った行事食、日本全国の郷土料理、一汁二菜など特色ある献立作りに取り組んでいます。
◆ちなみに、農産物は各学校ごとに農家と契約しています。

◆ゆでる、炒める、煮る、焼く、揚げる等の調理をします。大きな釜を使って一度に調理します。草加市では、手作りを基本とし、スープ、だし類も鶏ガラ、豚骨、かつお節等とります。野菜のカットもセンターのような「前日にカット」はしません。当日調理です。

「学校給食展」

◆大人気の給食試食会のほか、給食をテーマにした人形劇・紙芝居、そして食育スタンプラリー ロビーでは、市内小中学校の給食担当の先生がテーマ毎に模造紙にまとめた給食レポート、給食標語・川柳（各学校から提出）、給食の絵の展示などを企画。



校内で調理した出来立ての料理をとりわける児童たち。

学校区内の松原団地の建て替えや、学校の建て替えの際、「学校給食委員会連絡協議会」（保護者・校長や職員、栄養士などで構成）で「美味しい給食とは、地産地消を広げるには、財政面から」などを総合的に考えたうえで、「自校調理方式」を選択したそうです。そうした歴史を説明する市職員の顔がとても誇らしげでした。

杉野 まゆみ

「核兵器禁止条約の制定に積極的な役割を果たし 条約参加を求める意見書」

新生久喜・公明党の反対で否決

日本共産党久喜市議団は6月議会に「核兵器禁止条約の制定に積極的な役割を果たし条約参加を求める意見書」を提出しました。国連ではこれまで、生物・化学兵器などを「非難」する決議が採択され発効しています。最も残虐な大量破壊兵器である核兵器を禁止する条約づくりに、人類はようやく踏み出そうとしている中、唯一の被爆国である日本政府は、核兵器禁止条約の交渉に参加し、積極的な役割を果たすことを強く要望する内容となりました。

意見書否決は 市民の思いとかけ離れたもの

久喜市議会での採決は議会最終日の6月28日で、核兵器禁止条約が国連で審議されつつある中での採決でした。結果は、日本共産党久喜市議団と市民の政治を進める会の7名が賛成。新生久喜・公明党は反対で残念ながら否決となりました。久喜市議会がこの意見書を否決したことは、市民の思いとはかけ離れたものだと思います。

国連では核兵器禁止条約が採択

核兵器禁止条約は、7月7日国連加盟国193国の内122カ国の賛成で採択されました。人類の歴史の上で画期的な出来事です。原爆が広島、長崎に落とされてから70年間ヒバクシャの方々の勇気ある行動や平和を願う市民活動があったからです。久喜市長も「ヒバクシャ国際署名」に署名をしています。

今回の国連会議に世界で唯一の被爆国である日本の政府が参加しなかったことは、世界から失望の声が上がっています。



爆者被爆者藤森俊希さん（その左）と節子さん（中央）と握手を交わす中での歓喜

核兵器を違法とした国連決議は、核を保有する北朝鮮を孤立させ核開発を放棄させる大きな力になります。国連決議は、核のない世界に進むため、核保有国であっても「核兵器禁止条約」に参加できる道を示しています。

平和を願い、核兵器廃絶を願う思いを行動で示し手をつなぎましょう。

石田 としほ